



## 2021年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年3月5日

上場会社名 株式会社ファーマフーズ 上場取引所 東  
 コード番号 2929 URL <https://www.pharmafoods.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 金 武祚  
 問合せ先責任者 (役職名) 管理部部長 (氏名) 新谷 義信 TEL 075-394-8600  
 四半期報告書提出予定日 2021年3月17日 配当支払開始予定日 2021年4月2日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年7月期第2四半期の連結業績（2020年8月1日～2021年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年7月期第2四半期	20,393	216.1	△81	—	△49	—	△446	—
2020年7月期第2四半期	6,452	24.4	△1,585	—	△1,578	—	△1,536	—

(注) 包括利益 2021年7月期第2四半期 △448百万円 (—%) 2020年7月期第2四半期 △1,535百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年7月期第2四半期	△15.39	—
2020年7月期第2四半期	△52.90	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年7月期第2四半期	16,270	4,320	26.5
2020年7月期	10,096	4,907	48.6

(参考) 自己資本 2021年7月期第2四半期 4,318百万円 2020年7月期 4,904百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年7月期	—	3.50	—	5.00	8.50
2021年7月期	—	5.00	—	—	—
2021年7月期（予想）	—	—	—	10.00	15.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

2. 2021年7月期（予想）期末配当金の内訳 普通配当5円00銭 記念配当5円00銭（東証一部指定記念配当）

### 3. 2021年7月期の連結業績予想（2020年8月1日～2021年7月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	40,014	160.6	2,088	182.2	2,148	172.6	1,404	103.2	48.34

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）－、除外 一社（社名）－

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年7月期2Q	29,057,600株	2020年7月期	29,043,400株
② 期末自己株式数	2021年7月期2Q	一株	2020年7月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年7月期2Q	29,045,016株	2020年7月期2Q	29,037,952株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、上記の予想の前提条件その他に関する事項については、【添付資料】4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（四半期決算補足説明資料の入手方法）

第2四半期決算補足説明資料は、2021年3月23日に当社WEBサイトに掲載いたします。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループは「医薬」(Pharmaceuticals)と「食」(Foods)の融合「ファーマフーズ(Pharma Foods)」を実現するため、「Bio Business Triangle」をコンセプトに、「機能性素材(Bio seeds)」「バイオメディカル(Bio medical)」「通信販売(Bio value)」の3事業を主要事業としております。

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せず、2度目の緊急事態宣言が発出されるなど、先行きの不透明な状況が続いております。人々の生活様式の急速な変化及び高齢化社会の進展による人口構造の変化は、健康や美容に対する意識をますます高めております。健康食品や化粧品の販売チャネルは、インターネットやドラッグストアでの販売の増加など、多様化が進展しております。

このような状況においても、当社グループでは、中長期での高成長や企業価値向上を目指して、極めて積極的な事業投資を継続して実行しております。

当第2四半期連結累計期間におきましては、広告宣伝費13,157百万円(前年同期は4,752百万円)、研究開発費210百万円(前年同期は228百万円)の投資を行いました。

その結果、「ニューモ<sup>®</sup>育毛剤」を中心に顧客獲得が想定以上に急増し、2020年12月には定期顧客件数が70万件を突破いたしました。研究開発においては、自己免疫疾患の創薬標的分子に対する研究の成果が高く評価され、田辺三菱製薬株式会社との独占的ライセンス契約を締結し、契約一時金320百万円を計上いたしました。また、機能性食品素材では、「ファーマギャバ<sup>®</sup>」が大手飲料メーカー向けに記憶力を向上させる素材として出荷されるなど、研究開発の成果が業績に対して着実に寄与しております。

当第2四半期連結累計期間の売上高は、20,393百万円(前年同期は6,452百万円)となりました。「ニューモ<sup>®</sup>育毛剤」について約1ヶ月間の受注制限を行ったにもかかわらず、当社グループ全体では前年同期比216.1%の大幅な増収を達成いたしました。

営業損失は81百万円(前年同期は1,585百万円の営業損失)となりました。これは、当社グループの通信販売事業におけるビジネスモデルが、高水準の広告宣伝投資を行いながらも、通年を待たず早期段階で利益の創出ができる構造に変化しているためであります。その結果、当第2四半期連結会計期間は、四半期の営業利益としては過去最高の1,346百万円を計上いたしました。

また、経常損失は49百万円(前年同期は1,578百万円の経常損失)、当社単体における税引前当期純利益の黒字化に伴う税金費用の増加により、親会社株主に帰属する四半期純損失は446百万円(前年同期は1,536百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失)となりました。

前第2四半期から当第2四半期までの各四半期別の業績推移は以下のとおりです。

	前期			当期	
	前第2四半期 連結会計期間	前第3四半期 連結会計期間	前第4四半期 連結会計期間	当第1四半期 連結会計期間	当第2四半期 連結会計期間
売上高(百万円)	3,361	4,660	4,240	8,387	12,005
営業損益(百万円)	△800	1,328	997	△1,428	1,346
経常損益(百万円)	△810	1,353	1,014	△1,405	1,356

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

<バイオメディカル事業>

バイオメディカル事業では、当社独自のニワトリ由来抗体作製技術「ALAgene<sup>®</sup> technology(アラジンテクノロジー)」及び卵黄由来の生理活性ペプチド開発技術を用いた創薬事業を行っております。

「ALAgene<sup>®</sup> technology」は、従来技術では作製困難な創薬ターゲット分子に対する抗体作製を可能とする、当社の基盤技術であります。本技術を用いて「自己免疫疾患」「悪性腫瘍」を対象疾患とした抗体医薬の研究開発を行っております。

「自己免疫疾患プロジェクト」においては、2018年10月より2年間、田辺三菱製薬株式会社と抗体医薬に関する共同研究を推進してまいりました。本結果をもとに、当社と田辺三菱製薬株式会社は、独占的ライセンス契約を締結し、抗体医薬品としての開発段階に進めることを決定いたしました。本契約の締結に伴い、契約一時金として320百万円を計上いたしました。今後は、開発段階に応じた開発マイルストンの支払いを受けることとなり、さらに、この抗体医薬品が5兆円にも及ぶ自己免疫疾患に対する抗体医薬市場へ上市された場合、全世界における販売額に応じたロイヤルティと販売マイルストンの支払いを受けることとなります。

これに加え、自己免疫疾患に関しては、創薬研究所内に「国際PAD研究センター」を設け、一連のPAD※1関連ターゲットに関する創薬研究を推進し、創薬のパイプライン拡充が順調に進みました。特に抗PAD2抗体については、ヒト化抗体作製と薬効薬理試験を行っており、国内外の大手製薬企業と提携交渉を進めております。

「悪性腫瘍プロジェクト」においては、抗FSTL1抗体を用いた各種抗腫瘍試験を行うことで、製薬企業との提携交渉を継続しております。

また、当社では卵黄由来の生理活性ペプチド開発技術を用いて、骨形成に関与する治療薬の研究開発を行っております。

「骨形成プロジェクト」では、卵黄由来の骨形成ペプチド「リプロタイト®」が、国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)「平成30年度 難治性疾患実用化研究事業」に、東京大学及び長崎大学との共同研究事業として3年目の選定を受けており、研究開発を行っております。骨形成不全症の治療薬の候補として、「リプロタイト®」の作用機序の解明と、動物モデルでの薬効評価、薬物動態評価を行うことで、製薬企業との提携交渉を継続してまいります。

また、バイオメディカル事業では、新たな創薬ターゲットに対する抗体作製に加え、外部企業からの分析・効能評価試験等を受託するLSI(Life Science Information)事業を行っておりますが、新たな創薬ターゲットの研究開発に注力するため、受託試験の受注を控えたことにより、受託試験が減少いたしました。

これらの結果、バイオメディカル事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は332百万円(前年同期比187.5%増)、セグメント利益は174百万円(前年同期は8百万円のセグメント損失)となりました。

#### <機能性素材事業>

機能性素材事業では、独自の機能性食品素材を研究、開発し、食品メーカー等に販売しております。

当事業が属する機能性表示食品及び健康食品市場は、健康維持、増進への高い意識を背景に、市場規模が拡大しております。

当社の主力商品である「ファーマギャバ®」の売上高は、578百万円(前年同期比0.5%増)となりました。第1四半期連結累計期間では、メーカー等の発注タイミングの影響で前期末に出荷が集中したことにより、前年同期比で減少しておりましたが、大手飲料メーカー向けの記憶力向上を訴求した緑茶飲料に「ファーマギャバ®」が出荷されたことなどにより、当第2四半期連結累計期間では堅調に推移いたしました。機能性表示食品制度における「GABA(ギャバ)」の届出件数は434件(2021年1月末時点)で、引続き第1位の採用実績を維持しており、食品メーカーによるGABAの採用拡大が、トップシェアである当社の「ファーマギャバ®」の受注拡大につながっております。

OEM事業の売上高は、305百万円(前年同期比126.8%増)となりました。国内を中心に当社の機能性食品素材を配合したヘルスケア企業向けダイエット食品等への製品供給が増加いたしました。

骨形成成分である「ボンペップ®」の売上高は、92百万円(前年同期比0.4%増)となりました。国内外の食品メーカー等に、食品及びサプリメントの原料として配合されております。

海外を中心に成長中の美白素材「Cerepron®(セレプロン)」の売上高は、特に中国において需要が増え、25百万円(前年同期比146.8%増)となりました。引続き、中国及び東南アジア地域での販売に注力してまいります。

ヒアルロン酸産生を促進する鶏足由来素材「HAS-II®」は、グローバル食品原料メーカーKerry Groupとの提携により、海外での販売及びさらなる研究開発を行ってまいります。当社の機能性素材の海外での販売を一層推進いたします。

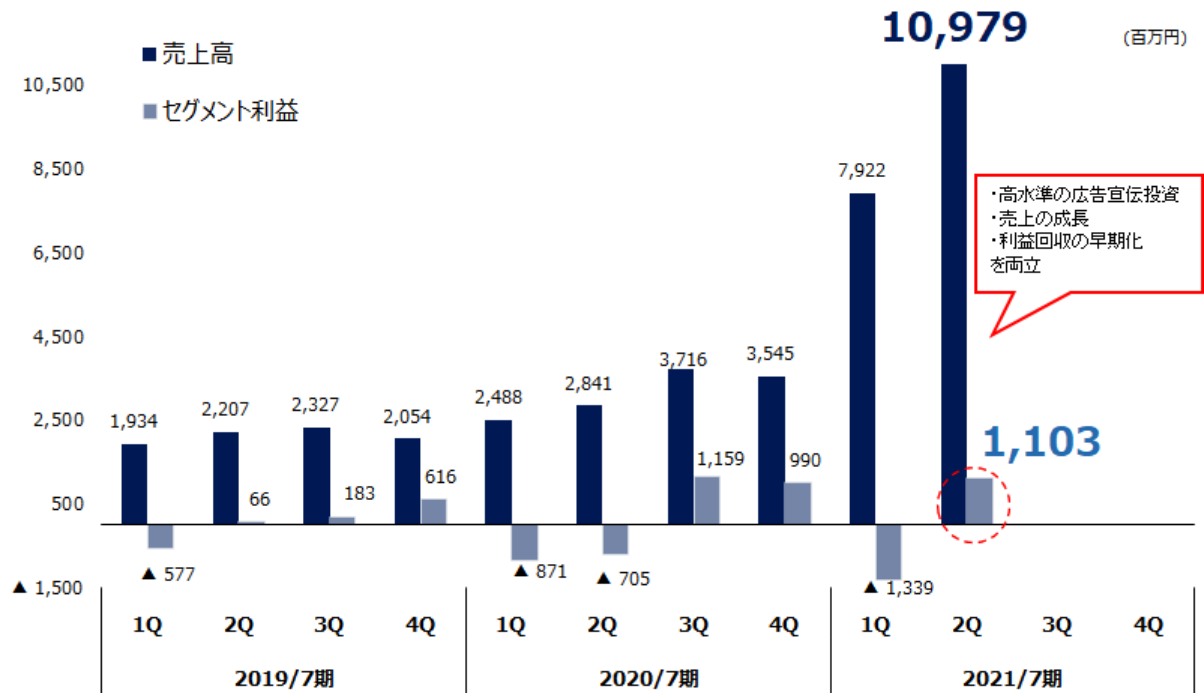
以上の結果、機能性素材事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,158百万円(前年同期比15.0%増)、セグメント利益は323百万円(前年同期比13.5%増)となりました。

#### <通信販売事業>

通信販売事業では、「発明企業の通販事業」として当社独自の機能性素材を配合したサプリメント及び医薬部外品(「タマゴ基地®」ブランド)並びに化粧品(「SOGNANDO(ソニヤンド®)」ブランド等)の商品を、通信販売の方式で消費者に直接販売又はショッピング専門チャンネルへの卸売販売を行っております。

当第2四半期累計期間においても、広告宣伝を上期に集中投資し、下期で利益回収する「通期黒字化モデル」を継続しており、2021年1月末時点で、定期顧客件数は770,870件となりました。当初想定と比べ高い顧客獲得効率を記録したため、機会を逃さず過去最高額の広告宣伝投資を実施いたしました。この結果、クロスセル施策及び解約率の低下効果もあわせ、当第2四半期連結会計期間は、四半期のセグメント売上高10,979百万円、セグメント利益1,103百万円を計上いたしました。「通期黒字化モデル」の「利益回収の早期化」及び「利益水準の上昇」が、売上高及び利益の増加につながりました。

## 通信販売事業の四半期業績推移



「ニューモ®育毛剤」は、特にテレビ広告において非常に良いCPO※2での顧客獲得に成功、当第2四半期連結累計期間における売上高は、11,150百万円となりました。一方、「ニューモ®サプリメント」の売上高は1,818百万円となり、育毛剤と同時に購入する比率が上昇した結果、顧客単価の向上に寄与しております。

化粧品の販売では、「ヘアポーテ® エクラ ボタニカルエアカラーフォーム」の新規顧客獲得に注力し、2021年1月末時点の定期顧客件数は、132,529件(2020年10月末時点では73,517件)となりました。当第2四半期連結会計期間は、予約販売により一部の新規の受注を制限しておりましたが、生産体制を強化し販売拡大の準備を整えることができました。

以上の結果、通信販売事業の当第2四半期連結累計期間の売上高は、18,902百万円(前年同期比254.7%増)と、前年同期比で大幅な増収となりました。損益面では、将来を見据えて広告宣伝費13,157百万円(前年同期比176.9%増)を計上した結果、セグメント損失は235百万円(前年同期は1,576百万円のセグメント損失)となりました。

※1 PAD (Peptidylarginine deiminase) : 標的タンパクのアルギニンをシトルリン化する酵素。生体内に5種類のPADが存在し、各種疾患との関連が報告されている。

※2 Cost Per Order : 顧客1件を獲得するために要した広告宣伝費

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ6,173百万円増加し、16,270百万円(前期比61.1%増)となりました。これは主に、現金及び預金の増加2,431百万円、通信販売事業の販売拡大等による受取手形及び売掛金の増加3,161百万円によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ6,760百万円増加し、11,949百万円(前期比130.3%増)となりました。これは主に、広告宣伝費の増加等による未払金の増加3,233百万円、コミットメントライン契約に基づく借入実行による短期借入金の増加2,500百万円、通信販売事業関連製品の製造費用の増加等による支払手形及び買掛金の増加710百万円によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ587百万円減少し、4,320百万円(前期比12.0%減)となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失446百万円及び配当金の支払145百万円による利益剰余金の減少592百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期業績予想については、事業環境が引続き好調を維持しており、業績進捗ペースが予想を上回る可能性を有しているものの、現時点においては据え置いております。

第3四半期以降も投資効率を踏まえて高水準の広告投資を行う計画ではありますが、東京オリンピック開催の有無及びそれに伴う広告枠の追加買付並びに新型コロナウイルスによる広告単価の動向を見極めたうえで、通期業績予想を精査し、速やかに開示いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年1月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,282,564	5,714,022
受取手形及び売掛金	2,238,986	5,400,889
商品及び製品	1,582,017	1,905,110
仕掛品	59,132	53,922
原材料及び貯蔵品	35,982	67,691
その他	241,648	446,519
貸倒引当金	△2,923	△3,732
流動資産合計	7,437,409	13,584,423
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	908,440	899,968
機械装置及び運搬具(純額)	6,868	5,554
工具、器具及び備品(純額)	104,175	95,685
土地	726,167	726,167
リース資産(純額)	23,018	23,477
有形固定資産合計	1,768,670	1,750,853
無形固定資産		
のれん	153,753	161,845
その他	44,994	50,164
無形固定資産合計	198,747	212,010
投資その他の資産		
投資有価証券	136,587	134,510
関係会社長期貸付金	54,350	42,301
その他	500,862	546,291
貸倒引当金	△200	△200
投資その他の資産合計	691,600	722,903
固定資産合計	2,659,018	2,685,767
資産合計	10,096,427	16,270,191



(単位:千円)

	前連結会計年度 (2020年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年1月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	449,878	1,159,931
短期借入金	—	2,500,000
1年内返済予定の長期借入金	1,275,660	1,229,529
未払金	722,101	3,955,711
未払法人税等	157,937	440,762
賞与引当金	2,702	11,886
その他	229,298	799,512
流動負債合計	2,837,577	10,097,333
固定負債		
長期借入金	2,302,939	1,806,159
退職給付に係る負債	20,916	18,391
その他	27,115	27,452
固定負債合計	2,350,970	1,852,002
負債合計	5,188,548	11,949,336
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,033,776	2,037,631
資本剰余金	1,812,574	1,816,430
利益剰余金	1,048,698	456,560
株主資本合計	4,895,050	4,310,622
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,956	8,306
繰延ヘッジ損益	△331	—
その他の包括利益累計額合計	9,625	8,306
新株予約権	3,204	1,926
純資産合計	4,907,879	4,320,855
負債純資産合計	10,096,427	16,270,191

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年1月31日)
売上高	6,452,431	20,393,054
売上原価	1,331,707	3,101,784
売上総利益	5,120,723	17,291,269
販売費及び一般管理費		
研究開発費	228,703	210,756
広告宣伝費	4,752,408	13,157,683
支払手数料	513,203	1,213,161
のれん償却額	18,703	21,680
その他	1,193,160	2,769,809
販売費及び一般管理費合計	6,706,178	17,373,090
営業損失(△)	△1,585,454	△81,821
営業外収益		
受取利息	2,345	1,770
為替差益	845	5,257
補助金収入	14,341	10,729
持分法による投資利益	—	2,920
業務受託料	6,078	8,256
その他	6,846	11,354
営業外収益合計	30,456	40,288
営業外費用		
支払利息	3,703	5,720
支払手数料	—	1,657
持分法による投資損失	19,661	—
その他	163	289
営業外費用合計	23,527	7,667
経常損失(△)	△1,578,525	△49,199
特別利益		
償却債権取立益	61,494	—
特別利益合計	61,494	—
特別損失		
固定資産除却損	600	965
特別損失合計	600	965
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,517,630	△50,164
法人税等	18,440	396,756
四半期純損失(△)	△1,536,070	△446,921
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,536,070	△446,921

(四半期連結包括利益計算書)  
(第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年8月1日 至 2021年1月31日)
四半期純損失(△)	△1,536,070	△446,921
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	386	△1,649
繰延ヘッジ損益	87	331
その他の包括利益合計	474	△1,318
四半期包括利益	△1,535,596	△448,239
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,535,596	△448,239
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)

## 1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年1月14日 取締役会	普通株式	101,642	3.50	2020年1月31日	2020年4月2日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年1月31日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年10月20日 定時株主総会	普通株式	145,217	5.00	2020年7月31日	2020年10月21日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年2月8日 取締役会	普通株式	145,288	5.00	2021年1月31日	2021年4月2日	利益剰余金

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年8月1日 至 2020年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	機能性素材 事業	通信販売 事業	バイオ メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,007,438	5,329,498	115,495	6,452,431	—	6,452,431
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,007,438	5,329,498	115,495	6,452,431	—	6,452,431
セグメント利益又は損失(△)	284,695	△1,576,325	△8,888	△1,300,517	△284,936	△1,585,454

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△284,936千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△266,233千円及びのれん償却額△18,703千円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年8月1日 至 2021年1月31日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	機能性素材 事業	通信販売 事業	バイオ メディカル 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,158,894	18,902,081	332,078	20,393,054	—	20,393,054
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,158,894	18,902,081	332,078	20,393,054	—	20,393,054
セグメント利益又は損失(△)	323,156	△235,166	174,487	262,477	△344,298	△81,821

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△344,298千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△322,618千円及びのれん償却額△21,680千円が含まれております。なお、全社費用は、報告セグメントに帰属しない一般管理費等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要性が乏しいため、記載を省略しております。